

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法評価学		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
遠藤 悠介 他	D320	y.endo	水曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	理学療法評価は、患者の持つ症状や障害を評価してそれらの情報を分析し、治療方針を立案するために重要である。身体機能に関する障害を把握する上で、関節可動域、筋力、身体計測に関する評価が重要となる。本授業では、理学療法評価の意義と目的を理解し、各種理学療法評価法の知識を習得することを目的とする。				
学習上の助言	解剖学や運動学、生理学で学んだ知識を応用し、理学療法評価法と関連させて考えると良い。わからないことは積極的に質問することが望ましい。				
教科書	理学療法評価学 第6版 著：松澤正 他 金原出版 新徒手筋力検査法 第10版 著：Hislop HJ 他 訳：津山直一 協同医書出版社				
参考書	図解理学療法検査・測定ガイド 第2版 編：奈良勲、内山靖 文光堂				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	理学療法評価の意義、目的について説明できる。			PT(1)、PT(3)、PT(5)	
②	各種理学療法評価の方法について理解し、説明できる。			PT(1)、PT(3)、PT(5)	
③	理学療法評価と解剖学・運動学・生理学との関連について説明できる。			PT(1)、PT(3)、PT(5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	一般的評価事項、バイタルサインについて学習する。 [担当：遠藤]	講義	一般評価項目、バイタルサインの方法について予習復習する。	4	
2	形態測定について学習する。 [担当：遠藤]	講義	形態測定の方法について予習復習する。	4	
3	関節可動域測定（上肢）について学習する。 [担当：遠藤]	講義	関節可動域測定（上肢）の方法について予習復習する。	4	
4	関節可動域測定（下肢）について学習する。 [担当：遠藤]	講義	関節可動域測定（下肢）の方法について予習復習する。	4	
5	筋力検査（上肢）について学習する。 [担当：遠藤]	講義	筋力検査（上肢）の方法について予習復習する。	4	
6	筋力検査（下肢）について学習する。 [担当：遠藤]	講義	筋力検査（下肢）の方法について予習復習する。	4	
7	痛みの評価、知覚検査について学習する。 [担当：遠藤]	講義	痛みの評価、知覚検査の方法について予習復習する。	4	
8	深部腱反射・病的反射、筋トーンス検査について学習する。 [担当：遠藤]	講義	深部腱反射・病的反射、筋トーンス検査の方法について予習復習する。	4	
9	バランステスト、日常生活活動検査について学習する。 [担当：遠藤]	講義	バランステスト、日常生活活動検査について予習復習する。	4	
10	動作分析について学習する。 [担当：遠藤]	講義	動作分析の方法について予習復習する。	4	
11	整形外科疾患検査について学習する。 [担当：川内]	講義	整形外科疾患検査の方法について予習復習する。	4	
12	姿勢反射検査、協調性検査について学習する。 [担当：川内]	講義	姿勢反射検査、協調性検査の方法について予習復習する。	4	
13	片麻痺機能検査、脳神経検査について学習する。 [担当：川内]	講義	片麻痺機能検査、脳神経検査の方法について予習復習する。	4	
14	電気生理学的検査、高次脳機能検査について学習する。 [担当：川内]	講義	電気生理学的検査、高次脳機能検査の方法について予習復習する。	4	
15	呼吸機能検査、循環機能検査について学習する。 [担当：川内]	講義	呼吸機能検査、循環機能検査の方法について予習復習する。	4	
試	定期試験（達成度評価・評価のポイント参照）				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験により、達成度評価を行う。				試験結果の返却または開示
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎遠藤悠介、川内 翔平            準備：身体を触知しやすい服装で授業に参加すること（ジャージやTシャツ等）</p> <p><b>教員の実務経験：</b>大学病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション、大学等で8年間の勤務経験  <b>実践的授業の内容：</b>臨床現場で使用する機会の多い評価方法について実技を中心に教示するとともに、実際の症例に基づいた評価方法の工夫点なども加えた実践的な指導を行う。  <b>感染対策：</b>本授業では大学が公表している感染対策及び教員が示す授業方法を厳守する。感染対策を遵守できない学生は面接授業の参加を認めない。今後の新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、シラバス変更の可能性があることに留意してほしい。</p>							